



河合サテライト通信 第41号

2009年12月4日

学校法人 河合塾 営業企画部

ついに12月に突入しました。大学入試センター試験まで、あと40日余を残すのみとなりました。

そこで、今月号では、ほとんどのセンター試験受験者にとって関心の高い「英語・筆記試験」、「数学Ⅰ・AおよびⅡ・B」について、全統マーク模試出題者からの学習アドバイスを特集します。〈編集担当：高瀬 優〉
【なお、本号記事の出典は、『Kei-net information <<河合塾>> Success Mail 2009 vol.29~32』です。

1. センター試験「英語・筆記試験」の学習アドバイス

第1問 発音・アクセント／強調の意図

◎発音・アクセント問題

- [1]-oo-、-aw-、-ea-、-ou-、-a-、-i-、-au-、-ei-、-th-、-cc-、-ch-などの代表的なつづり字の発音の出題が予想されるので、十分に練習を積んでおく。
- [2]綴りの長い単語で、アクセント問題に頻出するものに目を通しておく。
immigrant / appetite / accurate / luxurious / category / political / survival
economy / territory / competitive / concentrate / acquaintance など。
- [3]「カタカナ語」化した英単語は、アクセントの位置を間違えやすいので、特に注意する。
manager / average / vitamin / orchestra / musician / penalty / supermarket
dramatic / pioneer / heroine / alcohol / technique など。
- [4]普段の学習の際に、単語の「発音」「アクセント」に注意を払うようにしよう。

◎強調の意図問題

- [1]特定の単語を強調して発音するのは、ほかの何かとの対比・対照を表したい場合か、その単語自身が発話の中心的情報となっている場合のいずれかと考えてよい。
ほかの選択肢は、太字・下線部の単語以外の単語を強調したときの意図を表しているものが多い。
- [2]2007年度からの新傾向問題なので過去問が比較的少ない。2007年度と2008年度のマーク模試の問題で演習するのが最も効果的。2008年度と2009年度は名詞か代名詞が強調される問題ばかりであったが、2007年度は疑問詞や副詞が強調される問題も出されているので、問題演習を通じて、さまざまな品詞が強調されるパターンに慣れておこう。
- [3]強調の意図問題は、文強勢問題とねらいが似ているので、過去のセンター試験やマーク模試の文強勢問題をきちんと解くことも重要。

第2問 文法・語法／対話文空所補充／語句整序

◎文法・語法

- [1]文法の基本的な内容を理解しておきたい。難しい問題集ではなく、標準的な問題集を選んで、間違えたところや理解不足の分野をつかみ、自分の不得意な分野の内容を中心に学習していくとよい。自分の不得意な分野については、そこだけに絞って文法書の解説を読むのもよいだろう。
- [2]文法の基本的な内容としては、to-不定詞／分詞／動名詞／仮定法／助動詞／時制／関係詞接続詞／代用／倒置／強調などがある。そのほか、動詞の語法／形容詞の語法／名詞の語法などにも注意したい。
- [3]動詞中心のイディオムやその他の熟語表現もよく出題されているので、普段から熟語集や問題集で学習しておくことが大切。

<2ページに続く>

◎対話文空所補充

- [1]どんな場面でどんなことが話題になっているかをつかむようにする。
- [2]会話の流れをつかみ、特に空所の後ろの発言にうまくつながる表現を選ぶようにする。
- [3]会話でよく使われる定型表現や決まり文句を覚える。

◎語句整序

- [1]ポイントになる重要構文や熟語表現がないかを考える。また、整序部分だけに注目するのではなく、空所の前後につながる語句がないかどうかにも検討する。
- [2]主語になりうるものや述語になりうるものを考えながら文を作り上げ、できた英文の意味も正しく成立しているかどうかを確認する。
- [3]ポイントになる文法・語法上の知識と構文上の知識を蓄積しておく。

第3問 文意把握読解問題

◎意味類推問題

- [1]やや難レベルの「慣用表現」や「難単語」の内容を類推できる部分を正確に読み取る力を身につけることが大切。「慣用表現」や「難単語」はそれ自体は難しくても、文中でわかりやすく説明してくれているので意外と理解しやすい。
- [2]「会話表現」では、
You're asking for it! / I've been under the weather!
Cat got your tongue? / I have to cram as much as I can.
Let's not beat the dead horse. / I won't beat around the bush.
Can you give me a rain check? / Beats me! などに注意しておく。
- [3]「難単語」では、altruism / serendipity / dementia / antebellum / apiary / prosody
acrophobia / chauvinism / atheism / feudalism / anthropology / apathy などに注意しておく。

◎発言の主旨問題

- [1]指示文にディスカッションのテーマが与えられているので、指示文はしっかりと読む。
- [2]発言者がテーマに対して、賛成か、反対か、中立なのかを吟味しながら読み進む。
- [3]2008年度と2009年度では若干の形式変更があったが、問題の狙いは共通なので、形式の差を気にしすぎないこと。2010年度もさらに若干の変更が施される可能性があると思われる。

◎文補充問題

- [1]論説文を読む際に、段落ごとの内容をまとめていくという読み方を普段から練習しておく。
- [2]1998年度以降のセンター試験の第3問Cをすべて解いてみる。過去3年の問題は以前に比べて解きやすくなっているが、2006年度以前の形式はやや難しいので、解ければ実力がつく。
- [3]however や yet などの逆接を表すもの、moreover や in addition などの追加を表すもの、therefore や thus など帰結や結果を導くもの、for example などの例をあげるためのもの、to begin with や finally などの列挙を表すもの、こうした語句にいつも注意して、長文を読む練習をしておこう。
- [4]不定冠詞 a(n) つきの単数名詞（または冠詞なしの複数名詞）から定冠詞 the のついた名詞への変化、it や they などの代名詞あるいは this や these などの指示語が指しているものについて、長文を読んでいる時にいつも確認しておこう。

第4問 図表問題

- [1] 普段から論説文の内容の正確な読み取りの練習を心がけよう。段落ごとに内容をチェックする、あるいはキーワードやキーセンテンスは何かを考えながら内容をつかむ練習をする。
- [2] センター試験の過去問や論説文を扱った問題集などで、第4問Aの問題形式に慣れておく。
- [3] 問題Bの広告や問診票などを読み取る問題の対策としては、マーク式基礎問題集第4問用(河合出版)などの第4問専用の問題集を使って、本番と同様の練習をすること、そして、普段から英文の広告やパンフレット類を見たり読んだりするように心がけることが大切。この種の問題を素早く解くコツは、設問を先に読んで、「どんな情報を読み取ればよいか」を事前に頭に入れておいてから、広告や問診票やパンフレットを読むようにすること。

第5問 ヴィジュアル読解問題

- [1] 新傾向の問題なので過去問が少なく、過去2年間の模試と、新たに出された問題集を使って対策を行うしかない。
- [2] ただし、新しい出題形式が続くなら、絵とつき合わせて説明文を素直に読んで、矛盾点が見つかった説明文や絵を消去していけば自然に正解が残るので、受験生にとって第5問は取り組みやすい問題になるはずである。

第6問 長文内容把握問題

- [1] 第6問は、解答時間をどれだけ確保できるかが大きなポイント。第6問を解くには少なくとも20分くらい必要なので、大問ごとの時間配分を検討しておこう。
- [2] 解く際には、先に設問に目を通して「どの段落を参照すべきか」がわかる設問をチェックし、その後で本文を読む作業を行うとよい。そして、その段落を読み終えたらすぐに、該当する設問を解くとよい。本文をすべて読んでから設問を解くのではなく、1段落読み終わるごとに、その読み終えた段落に関する設問があればすぐに解くのがコツである。
- [3] 第6問で高得点を取るためには、短い時間で正確に長文を読む力をつける必要がある。まだ長い英文を読み慣れていない人は、やや短めの英文を長めに時間をとって解く練習をし、徐々に長めの英文に取り組んでいけばよい。問題を解いた後の検討も忘れずに行うことが大切。ある程度力のある人は、速読を意識して長文を読む練習をするとよい。速読するためには、意味の単位となる語句のかたまりを前から順に読み進み、文・段落・文章全体の意味を理解することができなければならない。ただし、練習方法はこれら以外にもたくさんあるので、最終的には自分にあった方法を見つけていく必要がある。

まとめ

- 時間配分がカギ! 適切な時間配分を決め、過去問などで練習しておこう!
- 弱点を明確に! センター試験までに苦手分野を克服しよう!
- 焦らず前進! 一步一步前に進むことが大切! 焦らず地道な努力を続けよう!

2. <河合出版・広告>センター試験英語の苦手分野克服のためにご利用ください。

センター試験英語 出題形式別問題集シリーズ 河合塾講師 小林 功・G Watkins/共著



- 1 英語 第1問【発音・アクセント・発話強調の意図】 税込定価780円
- 2 英語 第2問【文法・語法、対話文完成、語句整序】 税込定価800円
- 3 英語 第3問【意味類推、意見要約、文補充】 税込定価840円
- 4 英語 第4問【図表問題】 税込定価840円
- 5 英語 第5問【ヴィジュアル問題】 税込定価840円
- 6 英語 第6問【長文読解問題】 税込定価880円

ご購入は、サテライトネットワーク校専用通販にてお申し込みください。

3. センター試験「数学Ⅰ・A」の学習アドバイス

◎最初に、次のことをチェックしておこう。

- ・ 不得意な分野は残っていないか
- ・ 60分の時間内に解く練習をしているか

「数学Ⅰ・数学A」の試験では、60分の試験時間の中で配点が20点から30点の問題を4題解かねばならない。どの分野であっても、易しい問題から確実に得点しようという姿勢が望ましい。そのためにも各分野の典型的な問題は繰り返し練習しておこう。

また、1題の分量がそれほど多くないといっても、60分で解答するには、手際のよい計算力と判断力が必要となる。そういった能力を身につけるには、単に典型問題を解くだけではなく、より実戦的な練習が必要となる。過去のセンター試験の本試と追試は格好の練習材料である。さらに、今年度の全統マーク模試の問題に再度チャレンジするのもよい。これからの直前期には、実際のセンター試験の問題を60分で解くことを繰り返して、実戦力により一層の磨きをかけよう。

①→ 小問集合は手際よく

- ・ 方程式・不等式、集合・論理は、配点は少ないが小問2題の出題になるので、なかなか忙しい。
- ・ 方程式・不等式では、無理数の計算や整数にも気をつけよう。集合・論理では、命題の真偽や必要条件・十分条件が重要である。

②→ 典型問題の多い2次関数

- ・ 放物線の頂点と軸、x軸との交点、最大・最小、平行移動などを扱うことが多く、ある程度似た問題になってしまう分野である。

③→ 総合的な図形と計量・平面図形

- ・ 三角比の問題から始まって、途中から幾何の性質や定理などを扱う融合問題となっている。

④→ 数え上げと規則性をつかむことが大切な確率

- ・ 2009年度の問題では数え上げでほぼ答えられる。他の問題でも初めの方は数え上げで解けることが多く、その中から規則性を見つけると、もっと一般的な場合も解けることになる。難しくなってきたら発想を少し変えるとよい。

4. センター試験「数学Ⅱ・B」の学習アドバイス

①→ 典型的な問題の解き方のパターンを蓄積しよう

センター試験の数学の問題では、ア～ウでまとめて3点、のようになんらかのカタカナをまとめて点数を配分している。この「かたまり」を「枝間」と呼ぶことにする。さらに、マークすべきカタカナ（アイウなら3つ）の数を「マーク数」と呼ぶことにする。

2009年度センター試験の『数学Ⅱ・数学B』では、枝間の出題数は約50個であった。

また、マーク数は90前後であった。1つマークするのに5秒費やすとすれば、マークのためだけに必要な時間は7～8分ということになる。試験時間は60分であるから、マーク時間も考えると各枝間を平均1分強で解かなければ完答できない計算になる。

以上のことからわかるように、センター試験において、典型問題をすばやく解く「スピード」が求められる。計算が煩雑な問題にゆっくり時間を掛けられるよう、典型的な問題について解き方をしっかりマスターし、解き方のパターンをいくつも蓄積しておかなければならない。模擬試験の復習などでは、たとえ正解した問題であっても再度解き直し、時間短縮を図るように練習しておこう。

②→ 余裕があれば二次試験対策の問題を

二次試験で数学が必要な人はもちろんであるが、二次試験で数学が必要でない人も、余裕があれば、「二次対策」の問題集に取り組むとよい。もちろん他教科の勉強も必要であるから、時間的余裕のある人にしか勧められないが、センター試験の勉強だけでは数学の知識にやや偏りが出る可能性がある。

二次対策を積んだ人に有利な問題が出題されている以上、数学の知識を深めるべく、さまざまな問題にチャレンジしておきたい。

③→ 融合問題に慣れておこう

2009年度の第1問[1]では「対数関数」と「図形と方程式」の問題が、第2問では「微分法・積分法」と「図形と方程式」の問題が融合されて出題されていた。数学Ⅱの全分野を第1問と第2問の中に、ある程度網羅するためには仕方のないことである。融合問題になると正答率は低くなる傾向があるが、「融合問題は当然出題される」くらいの気持ちを持ってセンター試験に臨もう。

④→ 図形的判断力を身につけよう

『数学Ⅱ・数学B』のセンター試験では、「図形と方程式」や「ベクトル」のように図形を絡めた出題が多い。総合的な図形の見方が試されるといってもよい。ところが全統マーク模試の成績を分析すると、図形絡みの問題を苦手とする受験生が多いようである。図形問題の基本は「図をしっかりと描く」ことである。ただし、無駄な線を描く必要はない。学校や予備校の先生方の板書をよく見て、どのような図を描いたら問題が簡単に解けるようになるかを研究するとよい。

⑤→ 自分にあった時間配分を身につけよう

2009年度の問題は、数学の力のある受験生であっても時間内にすべて解くのは困難であった。前半の問題に時間をかけすぎると、後半の問題を解くのに焦って計算ミスしてしまうことも考えられる。たとえば、第1問は15分、第2問は15分…などと自分なりの時間配分を決めておいて、時間が来たらたとえ問題の途中であっても次の問題に進む、というような解き方を決めておく。これは、模擬試験を受験したり、日々の学習の中で時間を計って練習したりする中で身につくものである。時間配分をもう一度検討してみよう。

5. 「自分だけは大丈夫! …本当?」入試でトラブルに遭わないようにチェックしましょう!

大学入試では、「ちょっとしたミスが大きなトラブルになってしまい、それが平常心を失わせるもととなり、結果として失敗してしまった」という事例をよく耳にします。さて、このような大学受験に向かう皆さんへ、**本誌特製** **2010 大学入試・直前のチェックと心構え** を今月号の付録としてお届けしました。毎年ご好評頂いているスグレモノ付録です。大学受験のお供に是非ともご活用ください。

6. 理科・地歴・公民のセンター試験対策学習をやっていますか?

⇒まだ始めていない皆さんは、河合サテライト「センター試験対策講座」受講をぜひご受講ください。

2009年度設置・短期講座一覧

2009年度設置・短期講座一覧		1講45分[但し、※講座は除く]	()内数字は講座コード
理 科	物理Ⅰ：基礎編 (8277) 全10講	実戦編 (8278) 全10講	
	化学Ⅰ：基礎編 (8279) 全10講	実戦編 (8280) 全10講	
	生物Ⅰ：基礎編 (8281) 全10講	実戦編 (8282) 全10講	
	※地学Ⅰ (7283) 1講90分×全5講		
地歴公民	日本史B (8284) 全10講	世界史B (8285) 全10講	
	地理B：系統地理編 (8286) 全10講	地誌編 (8287) 全10講	
	政 経 (8288) 全10講		
	※現代社会 (7289) 1講90分×全5講	※倫 理 (5391) 1講90分×全5講	



7. <河合出版・広告>センター試験対策と併せて、国公立二次対策学習にご利用ください。

新こだわって! 国公立二次対策問題集シリーズ

国公立二次試験の対策学習に最適な問題集シリーズ。短期間での実戦力養成に、ぜひご利用ください。

英 語	英語1 英語表現[本格英作文・自由英作文] 860円	英語2 英文解釈[下線部和訳問題] 820円	
	英語3 英語長文読解 標準 820円	英語4 英語長文読解 発展 820円	
数 学	数学1 微分・積分[入試基本編] 860円	数学2 微分・積分[標準・発展編] 860円	数学3 確率 860円
	数学4 数列 860円	数学5 ベクトル 860円	数学6 行列・1次変換 860円
	数学7 微分・積分[数学Ⅱ分野] 860円		
理 科	物理1 力学 860円	物理2 波動・熱 860円	物理3 電磁気 860円
	化学1 理論化学[I分野] 860円	化学2 結晶・気体・溶液 860円	
	化学3 速度・平衡・無機物質 860円	化学4 有機化合物[I・II分野] 860円	

来年も 河合サテライト通信 をご愛読賜りますようお願い申し上げます。